

「根拠に基づく政策運営（EBPM）」

— EBPM の基本的な考え方と自治体の今後の対応 —

平成 31 年 1 月 29 日

神奈川県政策研究センター

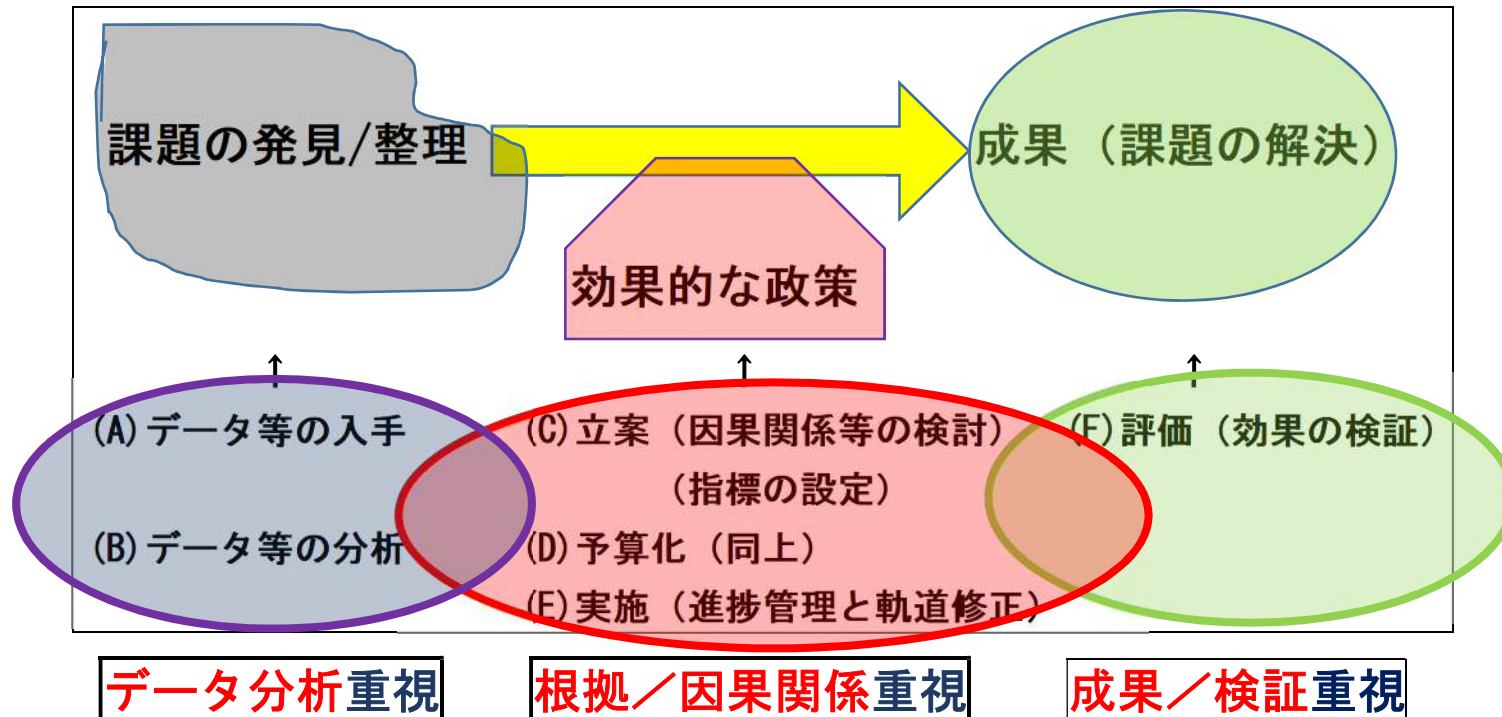
【報告のポイント】

- EBPM が目指していることは、「**政策の根拠や成果を意識する**」こと（これまでの仕事の進め方と本質的には同じ）
- EBPM は、「**①データ分析**」「**②根拠／因果関係**」「**③成果／検証**」がキーワード
- 自治体で EBPM を推進していく上では、「**データを重視する庁内文化の醸成**」、「**政策の進め方の工夫**」と「**環境の整備**」が鍵となる

1. 「根拠に基づく政策運営」(EBPM) とは何か？

(1) EBPM の考え方

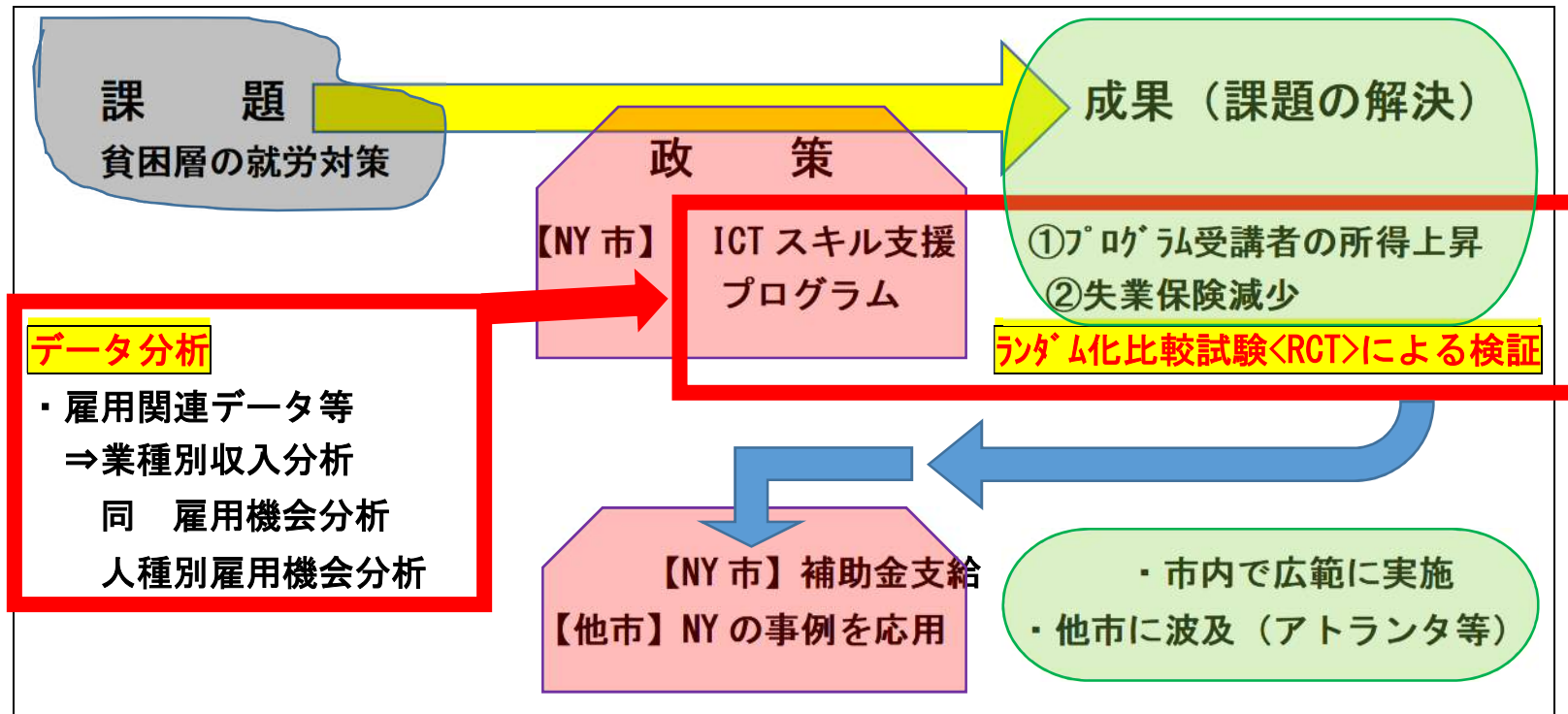
- ・ EBPM=「**根拠**(evidence)」に基づき政策を「**運営**(manage)」すること
- ・ 「課題—政策—成果」の繋がり (**根拠／因果関係**) を、より強く意識する仕掛け全体
- ・ 「**①データ分析**」「**②根拠／因果関係**」「**③成果／検証**」がキーワードとなる



1. 「根拠に基づく政策運営」(EBPM) とは何か？

(2) 英米における対応：事例

- ・ 英米では、教育・医療・犯罪防止等の分野で、**データ分析**、**効果検証**などを幅広く実施
- 【NY市*】 貧困対策において、ICTスキル支援策を試験的に実施した**効果を検証**（他市にも波及）



* 米国 NY 市 Per Scholas 事業（2011～2013 年）

1. 「根拠に基づく政策運営」(EBPM) とは何か？

(3) 日本における対応：EBPM の推進に向けた環境整備

- ・日本でも、EBPM の推進に向けた環境整備が急速に進められている

【日本】

官民データ活用推進基本法（官デ法） 2016年12月

→ データ整備、データの利活用

統計改革推進会議 2017年5月 最終取り纏め

EBPM 推進委員会 2017年8月 設置

EBPM 推進に係る行政事業レビュー 2017年4月～

→ エビデンスの明確化、各府省の自己点検

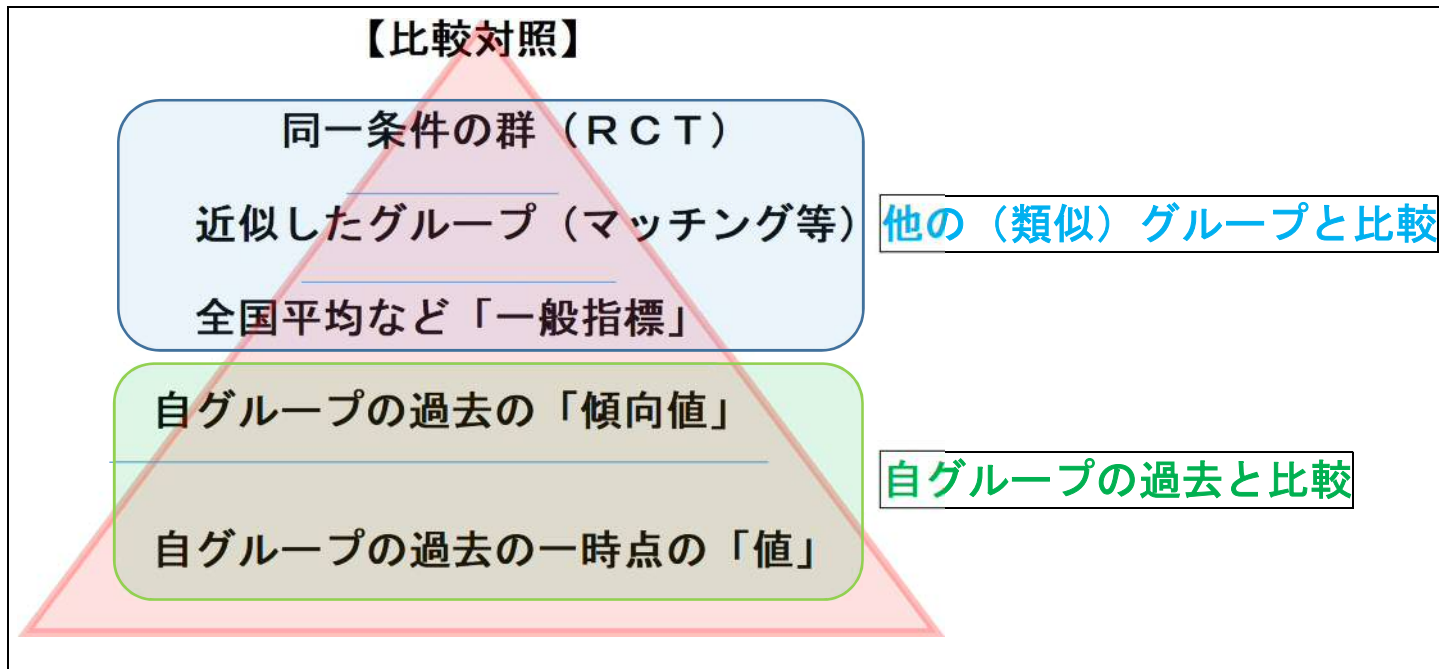
総務省等による実証的共同研究 2018年4月～

→ 因果関係や政策効果の分析（女性活躍推進政策等を題材）

2. EBPM を理解するための基本的概念

(1) 政策の効果の評価方法：種類と信頼性のレベル

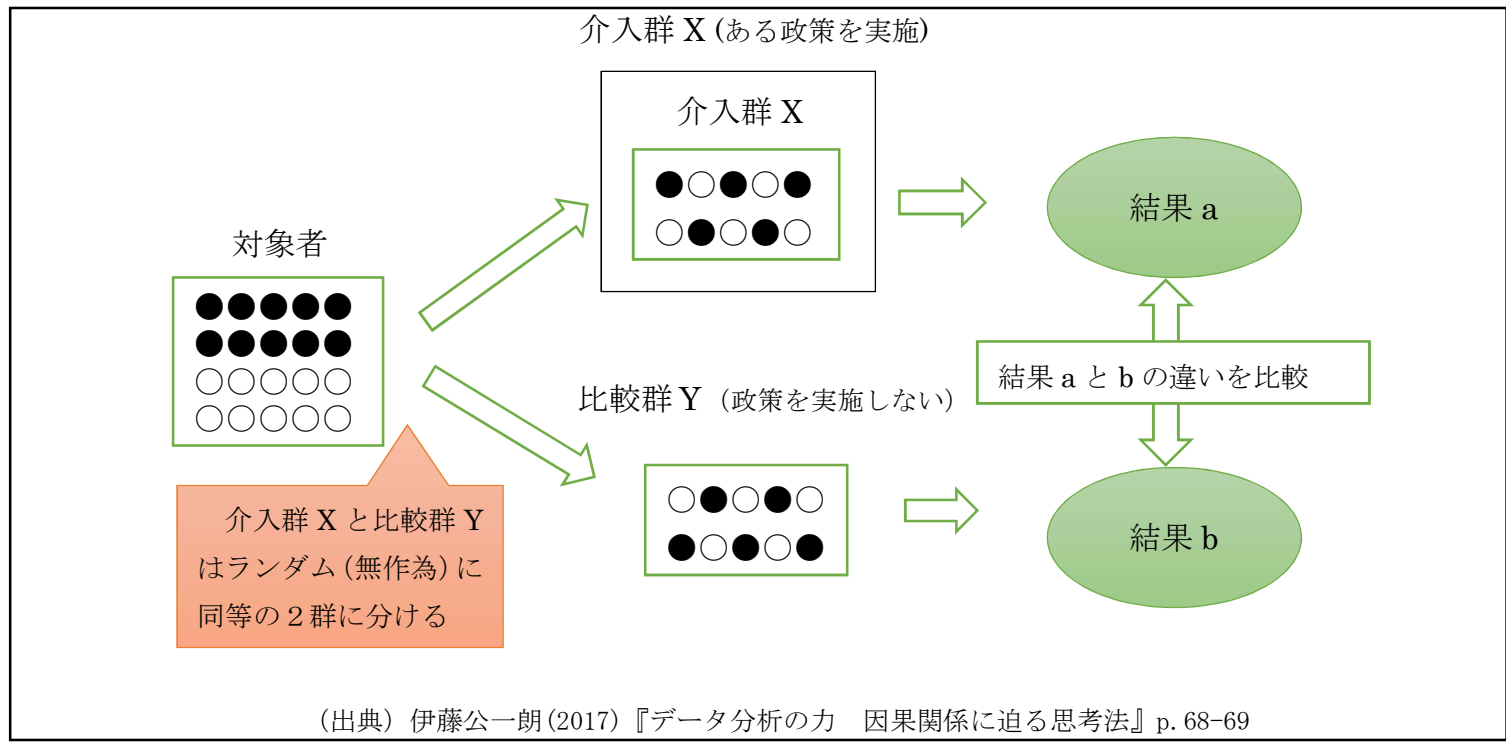
- ・ 政策に**成果**があったといえるためには、政策の前後の結果等と比較する必要がある
- ・ 比較対照した内容の「**根拠**」として信頼性のレベルは様々
- ・ ランダム化比較試験（RCT）が、科学的でもっともすぐれた手法とされる



2. EBPM を理解するための基本的概念

(2) ランダム化比較試験 (RCT) : ① RCT の基本的考え方

- ・ **RCT** : 対象を無作為に2群に分け、片方のみ政策を実施して、政策の効果を検証
- ・ 「**根拠**」の中では、RCTに基づくものが、科学的でもっともすぐれた手法とされる



2. EBPM を理解するための基本的概念

(2) ランダム化比較試験 (RCT) : ② RCT の課題

- ・ RCT が理想的な方法だとしても、現実にはこれを適用できない場合が多い
⇒ RCT は「不可欠なもの」でも、「必ず実施可能なもの」でもない
状況に応じ「適切な手法」(=**根拠をできる限り示すもの**) で比較対照すべき

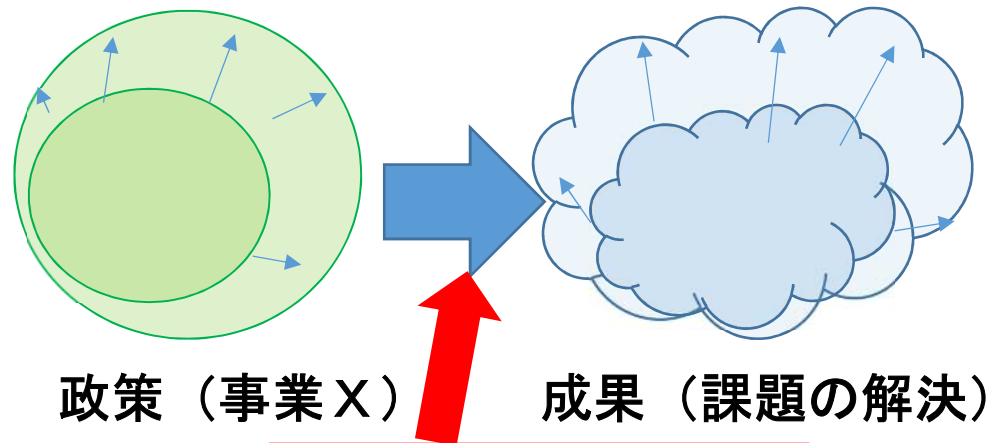
【RCT の限界】

(A) 費用	2 群の厳密な比較にはコストがかかる
(B) 時間	比較試験には年月を要する (政策的にそこまで待てない)
(C) 同一条件の確保	「条件が本当に等しい」2 群は作れない
(D) 相互作用	介入が、対照群の行動にも影響を与えてしまうかも
(E) 実施範囲	エリア等を限って、試験的に実施できないかも
(F) 倫理	介入をしない対照群を作ることが倫理的に許されないかも
(G) 外部妥当性	場所や時期が異なった RCT の結果を、そのまま活用できないかも

2. EBPM を理解するための基本的概念

(3) ロジック・モデル【1/2】

- ・ 政策は「課題—政策—目標・成果」が有機的に関連してこそ意味を持つ
- ・ 「課題—政策」「政策—成果」の「(ありうる) **因果関係**」を整理することが重要



因果関係

- ・ データの分析
- ・ 論理的な繋がり

「効果がありそうだから、政策（事業X）を実施する」

=政策と成果の間に「**因果関係**がある」

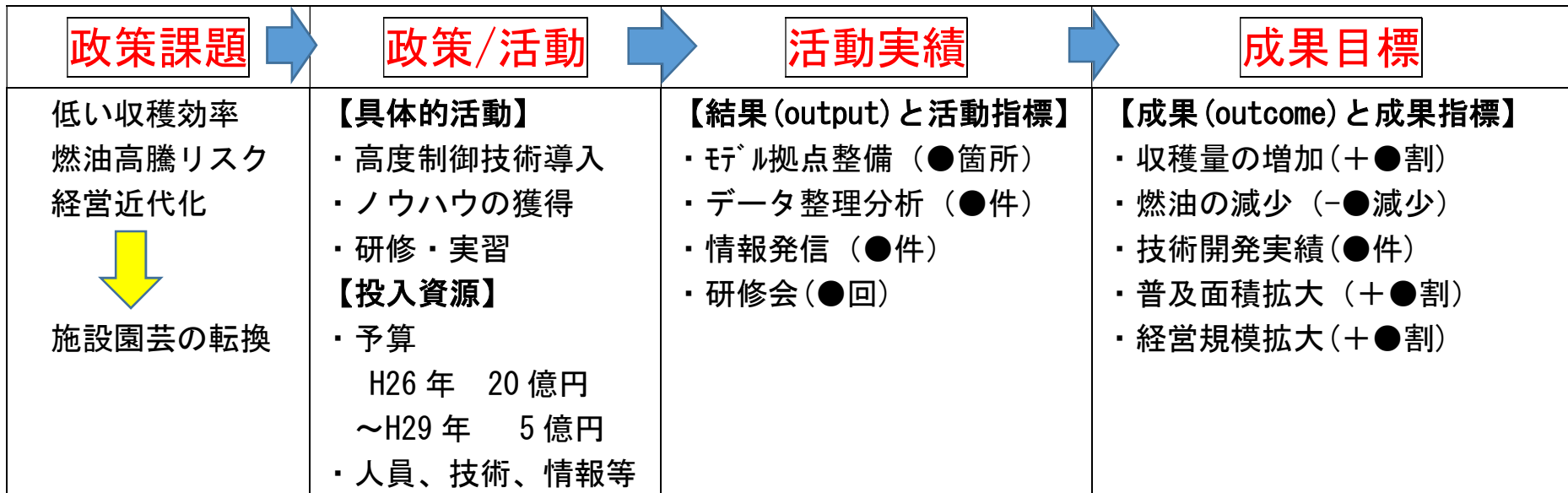
（少なくとも、因果関係があると予想して政策を実施する）

事前にデータを分析したり、論理的に両者が繋がっていることを検討しておくべき

2. EBPM を理解するための基本的概念

(3) ロジック・モデル【2/2】

- ・ ロジック・モデルとは、課題から目標までの論理的なつながりを視覚的に把握するツール
 - ・ 政策の根拠等をきちんと検討してきていれば、策定は特段難しいものとはならないはず
 - ・ データの分析結果等が、裏付けとして存在
 - ・ 政策の期待される成果を示しており、事後的には政策の成果を評価する枠組みともなる
- 【農水省*】施設園芸拡大支援事業について、政策内容から活動指標・成果指標まで明示



* 次世代施設園芸拡大支援事業の計画 (2017~2022年<予定>) を簡略化して記載

3. 自治体がEBPMを推進していく上での対応事項 (1) 庁内文化の醸成に向けた二つの柱

政策形成においてデータを利活用する「庁内文化の醸成」が重要となる。

政策プロセス上の工夫 (主に財政部・政策部)

⇒政策の立案・予算査定・評価 **プロセスの変更**

データを利活用しやすい環境の整備

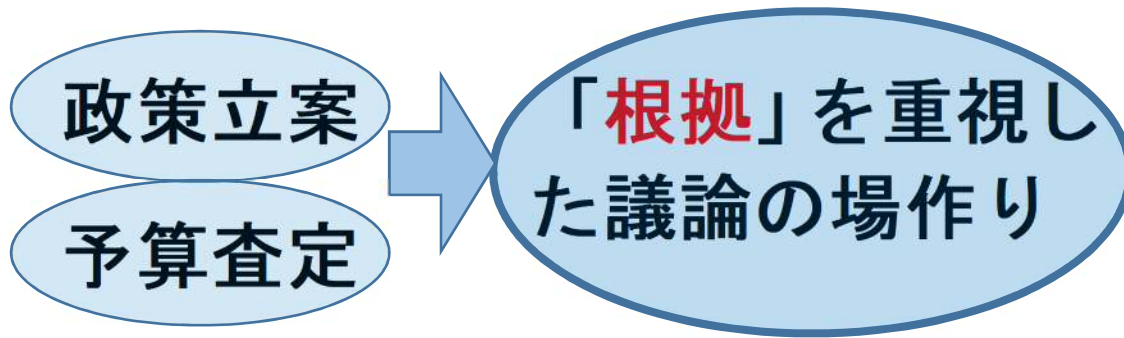
(主に人事・システム・統計部署)

⇒ **データの整備、人材育成**

3. 自治体がEBPMを推進していく上での対応事項

(2) 政策プロセス上の工夫

・政策プロセスの変更が重要となる（政策立案、予算査定、進捗管理、評価）



- ・ **根拠**となる**データ**等の積極的な入手
- ・ **検証**可能なかたちでの政策の立案
 - **データ**入手のコストを含めた予算化
 - **成果**との有機的な繋がりのある指標の選定
- ・ 多面的な**分析**と、**因果関係**のある政策の選択
 - **成果**指標の選定
 - ロジック・モデルによる**因果関係**の整理
- ・ 構成要素に分解して積上げた**成果**目標の設定



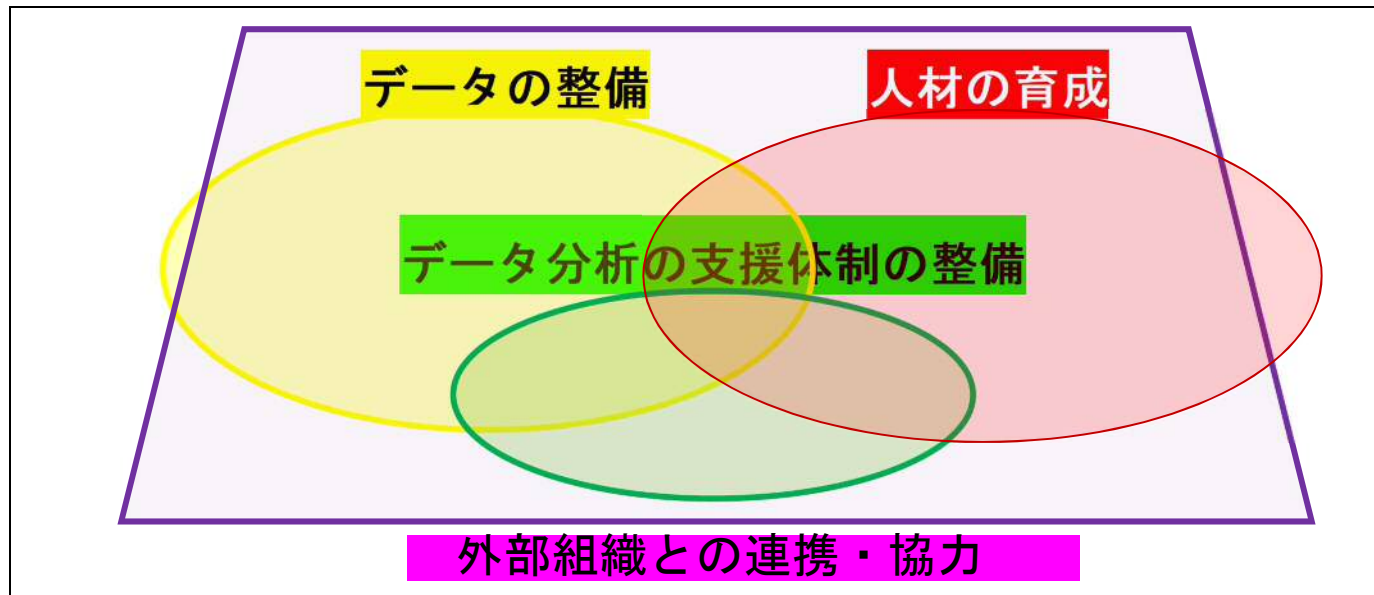
- ・ **データ**等による進捗の管理
 - **データ**等に基づく政策の軌道修正
- ・ 継続案件の査定における**成果**の評価の活用
- ・ 構成要素に分解した**成果**の評価（要因分析）
 - 政策の改善、新たな政策立案への活用

⇒明らかに**根拠**に乏しい政策は、**成果**をもたらす可能性も低いものと考えべき

3. 自治体がEBPMを推進していく上での対応事項

(3) データ利活用のしやすい環境の整備

- ・ (A) データの整備（インターネット環境を含め、**データを使いやすい環境**を提供）
- ・ (B) 人材の育成（特に、データ整備・データ分析に係る**リテラシーの引上げ**）
- ・ (C) データ分析の支援体制の整備（組織の見直しを含む）
- ・ いずれも、「(D)外部組織との連携・協力」が重要な要素



《参考》 EBPM の推進に向けた神奈川県の取組み（2018年度は「変革の年」）

政策プロセスへの EBPM 的発想の導入

- ①政策立案プロセス（政策レビュー調書の見直し）
事業内容と期待される成果との因果関係等を強く意識

- ②予算編成プロセス（予算編成方針に「EBPM の推進」を明記）
検証可能な成果目標の設定・事業→成果の因果関係の明確化、
継続事業は成果の徹底的な検証と事業内容の精査

《参考》 EBPM の推進に向けた神奈川県の取組み（2018年度は「変革の年」）

データ整備・分析業務にかかる支援

- ①データ利活用ポータル(利活用可能なデータ等の提供)
- ②統計作成における支援(統計調査に関する相談)
- ③経済波及効果分析ツールの提供(費用対効果の検討)
- ④個別のデータ整備・分析作業の支援

研修・人材育成等

- ①EBPM 基礎講座(基本概念・先進事例の情報提供等)
- ②政策形成研修(データ分析等の具体的方法等)

以 上